

## 第3回 和東町第5次総合計画審議会

### 議事要旨

日時：令和3年3月25日（木）午後2時00分～午後3時55分

場所：和東町社会福祉センター大ホール

出席者（18名）

出席委員：藤井委員、濟藤委員、荒木委員、村田委員、中川委員、井上委員（代理：坊氏）、姫野委員、西田委員、奥委員、大西（研）委員、吉田委員、村城委員、岡田（文）委員、湊委員、西村委員、澤委員

欠席委員：岡田（周）委員、大西（隆）委員、北委員、布川委員、

事務局：岡田課長、藤原担当課長、中尾課長補佐、（株）ぎょうせい2名

配布資料

資料-1 和東町第5次総合計画「基本構想案」

参考資料-1 和東町まちづくりアンケート（抜粋）

参考資料-2 人口の将来展望（和東町人口ビジョン H27.10）

参考資料-3 観光入込客数・観光消費額

参考資料-4 自然動態・社会動態

参考資料-5 第4次総合計画（後期基本計画）概要版

次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）協議事項

① 和東町第5次総合計画「基本構想案」について（まちづくりの理念と将来像）

【資料1】

資料1の「まちづくりの理念と将来像」について、事務局より説明。

会 長：ご意見あるか。

副 会 長：理想だけを追って、現実を考えて提案しているものとは思えない。3年ほど前

の京都府の統計で、10年後には農業者人口が55%減少するという推計がある。理想だけでは生活できないし、住民を幸せにできない。和東町は農業者が多いため、京都府の推計通り人口が減少しているという見方もできる中で、理想を語るのではなく、「株式会社和東町」の気持ちで施策を打ち立てていかなければならない。まちづくりの予算を作っていくための考えは行政にあるのか。

会 長：政策をどう展開するかの話であったが、それについては、次回の基本計画の中身の議論になると思う。現実には厳しいが、計画の目標がなければ人口増加も見込めない。

事務局：将来の政策や投資の話では、犬打峠トンネル及び総合保健福祉施設がある。その他に町では、南山城水害後の橋の修理が進んでいないので今後10年間で橋の架け替えや道路、橋梁の整備を進めていく。また民間活力を使った開発や政策、土地利用が必要だと思う。こうしたことを進めていかなければ、毎年人口100人減は止まらなると考える。この減少を少しでも抑制するようなご意見をいただきたい。

岡田(文)委員：政策や施策の現状を一番理解している和東町の職員に向けて、福祉や教育等で何が必要か、和東町在住の職員には町内に住んでいる理由、町外在住の職員には町を離れた理由等についてアンケートを行ったらどうか。

事務局：和東町職員80人に対して、短期間(4月～5月)でアンケートを実施したい。

会 長：町を出ていく理由を調べることで施策に結びつくと考えられる。

湊 委員：理念と将来像については理想も含まれていると思うが、方向性を示すものなので良いと思う。大事なことは、町の方向性を住民に浸透させて、理解していただいた上で計画を進めていくことではないか。

副 会 長：一般企業と同じように、住民に理念を伝えて一体となったまちづくりを目指していくことが重要。これまで以上にスピード感を持つことが求められる。

会 長：今後は基本構想案に基づいた施策が各課から示される。次に移る。

## ② 和東町第5次総合計画「基本構想案」について（将来人口・交流人口について）

会 長：ご意見あるか。

副 会 長：行政は観光も重視して人口増加を考えているが、このコロナ禍で観光を見据えたビジョンを立てる理由がわからない。観光も大事だが、定住人口を増やす企業誘致などを考えるべきではないか。宇治田原には工業団地があり、こうい

った住民が生きていく手立てが必要ではないか。

会 長：町の観光の考え方の一つとして、お茶等の商業関係が増えないと観光客が増える要素がない。観光は交流や関係人口があり指標の設定は大事だが、商業の雇用等について、今後具体的な施策で示していくということによいか。

事 務 局：観光をこの10年間頑張ってきた中で、コロナ禍で全国どこも大幅な減収という現実がある。和東町の住民が町内の循環で生活ができていたのは30年前の話。現在の専業農家は努力の結果であり、兼業農家は生活のために農業と別に就労しているのが現状。今の状況であれば近場に働く場がなければ、町外へ移り住むことになる。社会動態の変化をもたらすためには、犬打峠トンネルの開通までに何ができるのかを基本計画の中で話し合いを進めていきたい。

村城委員：人口の増減要素の中で、現状では減る要素が多いが、逆転すれば増加に転じると考えられる。入ってくる要素を具体的に考えると、工場誘致などがあると思うが、反対意見も出るだろう。また町を俯瞰すると、和東町に何を期待されているかが見えてきて、それが施策に繋がるのではないか。奈良や大阪など近隣で和東町の環境に望まれることを探るのが大事。町に入って来る人を期待したい。

会 長：工業・工場誘致合戦がある一方で、今は全国で人の取り合いになっている。少子高齢化に伴い確実に人口を確保することが難しくなっている。移住する人は町の価値に共感して住みたいと感じているはずなので、その理由を追求することが重要。ただし社会的なインフラ、教育的なインフラも必要になる。事務局にお願いしたいのは、施策が出てきたときに、それぞれの施策の効果を示していただきたい。

吉田委員：人口 3,500 人が、目標値として現実味があるかは今後の施策次第だと考えるが、現実で考えると目標値が高すぎるのではないか。年間100人減少を年間30人に抑える必要があり、3分の1にとどめないといけない。犬打峠トンネルと総合保健福祉施設の変化要因では難しいのではないか。もう少し議論を進めていく必要がある。現在の合計特殊出生率はどれほどか。

事 務 局：平成30年の町の合計特殊出生率は 1.06 で相楽東部3町村は和東町と同じぐらい。京都府 1.29 であるので、0.2 ポイント以上低い状況となっている。

事 務 局：4ページに記載あるが、全国的にみてもかなり低い。人口の増減は自然と社会動態ですべて決まる。生まれる、育てる環境づくりが必要であり、生涯の健康寿命を延ばすことが人口減少につながる。社会動態については、近年は社会増減が0に近づきつつあるので、社会動態の転入者を増加させる施策が大事である。

村田委員：転入、転出のそれぞれの理由は何か。そこからみえてくるものがあるのではないか。

事務局：転出届提出時のアンケートの結果では、結婚、就職、通学が多い。転出先としては木津川市が一番多い。就職先としては奈良市、大阪市、京都市が多くなっている。転入については、アンケートをとっていない。

村田委員：転入の73人の方は、和東町に定住しているのか。

事務局：転入・転出届の統計の根拠は住民基本台帳であり、完全に移住されているかの詳細は分からない。

会長：施策を考えるうえで、転入者のニーズや転出を引きとめる施策が大事。目標は具体的な施策でどれだけの効果を見込むのかを示せれば、今後の評価もしやすい。

副会長：目標を大きく設定し、近づくために頑張るものという考えで良い。ただし、現実から乖離しすぎていると難しいので、どんな施策を示すのかという具体的な議論が必要。

岡田(文)委員：転出する3大理由を聞くと、働く場と住む場所の確保が必要。交流人口30万人の受け皿はどうなっているのか。年間30万人とすると一日平均700人呼び込むことになるが、観光客をどこに滞在させるのか。宿泊施設はどうするのか。せめて5台のバスの休憩場所も必要ではないか。教育については学力を向上させ、子供が学ぶ場と親の働く場所がある。そういう環境づくりが必要。

会長：目標は高い方がよいという意見のある一方で、実行性のある目標である必要がある。実態の把握をして、適切な施策をすることで、600人の差を埋めていくことでお願いしたい。

姫野委員：定住人口の1次から4次の総合計画の目標人口があったと思うが、どの計画も目標人口を下回っていたのではないか。その原因を突き詰める必要があるのではないか。高齢化率が高い中では死亡率は高くなる状況である。単に増やすではなく、みんなが納得できる3,000人を上回る施策にするのが必要。

湊委員：交流人口は大事である。交流人口があるから人口が増えているという事実がある。現状では交流人口30万人の設定はハード面、ソフト面両面の整備が進んでいない。交流人口の目的について、経済効果を生むためか、移住を促進するためのものなのか、施策を考える前に委員で共有しておく必要があるのではないか。個人的には転出を引き留める施策を先に進めていくべき。それが町の魅力につながる。土地を大事することから、まちづくりが始まる。交流人口の目標値は良いが、壁が多いので、移住者、町民、観光に携わる者など、もっと現場の声を聴いてほしい。この数値の設定は非現実であるが、楽しみな部分もある。

会 長：交流人口について、和東に対する効果をどのように考えていくか。定住に繋がるのか、観光客増加につながるのか。

副 会 長：私は反対意見も含めて数多く意見しているが、必ず代替案を出しているつもりである。この提案を参考に施策を考えてほしい。短時間の対応をお願いしたい。

会 長：交流人口を施策に位置付ける方法論はあるか。

事 務 局：具体的な切り口は今後整理する。第4次総合計画開始時の交流人口25万人の設定については、経済効果を考えていたものであった。定住人口の問題も含めて今後検討していく。

村田委員：基本構想の会議であれば、今は具体的な議論は必要ない。何か手を打たなければ、立ち行かなくなる和東町を共通認識として、人口減少を前提とする対策を考えるのか、人口増加をどのように考えていくかの方向性を示して、話を進めるべきである。教育や子育ての魅力の発信をどうするか具体的な施策は次回以降考えていけば良い。

会 長：定住と交流の人口を議論するときに、様々な視点でご意見いただいた上で具体的な施策に繋がれば良い。本日の施策に対する意見は今後の基本計画づくりに参考にしてほしい。教育の面では、英語教育の話もあったが、和東独自の対策はあるか。

中川委員：社会教育の面から、英会話、スポーツ、子どもための放課後活動づくりなどに取り組んでいる。

会 長：教育委員会の意見が計画に反映されることはあるのか。

村田委員：教育委員会が施策を作ることはない。現在、他市町村から和東町にスポーツをするためにきている生徒がいる。スポーツができる町といったようなところが町の魅力につながる。

会 長：将来人口・交流人口についてはこれで良いか。次に移る。

### ③ 和東町第5次総合計画「基本構想案」について（地域構造）

会 長：ご意見あるか。

吉田委員：基本的にはご提案通りで良い。今後施策の具体的な議論の中で、企業誘致、居住を確保していくのかを具体的に出てきたときに、この図に盛り込んでいくのか。

事 務 局：地域構造について新しいエリアとして出ているのが、「沿道型サービスエリア」

である。この沿道型サービスエリアを中心に、生活環境整備エリア(西和東、中和東)において進めていきたい。

#### ④ 和東町第5次総合計画「基本構想案」について（施策の体系について）

会 長：ご意見あるか。個別課題はどこから出てきたものか。

事 務 局：住民アンケートや団体ヒアリング、基本計画の評価等から整理したもの。

吉田委員：5番目に幼児教育とあるが、あえて幼児にこだわっている理由は乳児は福祉に含まれるという理解になるのか。「就学前教育」や「乳幼児教育」など、表現を検討していただきたい。

坊氏(代理)：議論の場をもう少し細分化し、小委員会等を設けステップを踏んだうえで、反映するのがよいのではないか。

岡田(文)委員：7番目の項目に「人権」というのが入っているが、ここに必要なものなのか。

村田委員：人権はすべてのベースにあるもの。人権なくして行政は成り立たない。男女共同参画の視点では、女性の切り口は実践的なものが多いので、積極的に意見を取り入れていければ良い。

副 会 長：男女共同参画で女性の登用という話であれば、この場に女性が出てくれば良い。出てくることを止めているわけではない。外しているみたいなことを言われるが、委員になって意見すれば、行政にも伝わるのではないか。

会 長：人権と男女共同参画という話も出てきたので、個別の施策に意見を反映させていただきたい。分科会については事務局と検討していきたい。

副 会 長：実行するための会議でありたい。理想論で終わってはならない。

#### 4 その他

事 務 局：令和3年度、あと3回程度の審議会を経て答申としたい。会長、副会長と相談の上、次回日程を決定する。8月には答申、9月に議決予定。

#### 5 閉会

以上